

みやま温泉 わくわくの湯

Miyama Onsen Wakuwakunoyu
(長野県山ノ内町)



外観

年始のスキー温泉取材が始まった。2014 年元旦の取材になったのは、志賀高原の麓にあるみやま温泉 わくわくの湯である。

この日の志賀高原は最高の雪質で、朝一番の滑走は爽快そのものであった。取材班は 8 : 30 に焼額山第 2 ゴンドラを出発し、焼額山、奥志賀、一の瀬、タンネの森オコジヨ、高天ヶ原、東館山、西館山、ジャイアントと攻め続け、へろへろになって焼額山に戻り、15 : 30 にスキーを終了した。いじめ抜いた体で温泉を取材する。これぞ王道である。

みやま温泉は、本来は温泉旅館「民宿みやま」である。その温泉旅館が、隣の敷地に日帰り入浴施設を作った。これがわくわくの湯だ。

わくわくの湯は、脱衣室から浴室へ入るといきなり窮屈な部屋になっている。この部屋に洗い場が 3 つあり、リンスインシャンプー、ボディークリームも完備している。その部屋を出ると、そこが露天風呂だ。つまり、わくわくの湯には内風呂の浴槽はないというわけだ。

洗い場がたったの 3 か所とはいかにも少ない。それもそのはず、露天風呂からは別の洗い場へも行くことができる。それは小さな小屋だ。中を覗いてみると、やはり窮屈な部屋に洗い場が 3 つある。

かくのごとく洗い場は少々貧相であるが、わくわくの湯の最大の見せ場は露天風呂だ。岩でできた浴槽に、中央部だけ傘の形の小屋組みがある。大部分の場所には屋根がなく、まさに露天風呂。雪が降ろうと、雨が降ろうと、それを全部受け止めることになる。湯温はやや熱めだ。

よく見ると、湯の中には白い浮遊物がたくさんある。湯の花だ。しかし、かき集めて自宅へ持って帰ることなかれ。温泉は温泉で楽しむから価値があるのだ。

尚、さらにじっくり温泉を楽しみたければ、民宿みやまに宿泊をすればよい。民宿みやまは素泊まりも可能であり、わくわくの湯と渡り廊下でつながっている。宿泊すれば、何度でも入浴が可能だ。しかも、わくわくの湯の休憩室では、飲み物、食べ物の持ちこみもOKなのだ。

ちなみにわくわくの湯は含硫黄ナトリウム・カルシウムー塩化物・硫酸塩温泉（硫化水素型・中性低張性高温泉）で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、きりきず、やけど、糖尿病、高血圧病、動脈硬化症に効くという。

わくわくの湯は、志賀高原でのアクティブな休暇のしめくくりにもってこいのロケーションであり、その疲れを十分に癒してくれるであろう。

- **名称**：みやま温泉 わくわくの湯
- **所在地**：長野県山ノ内町平穩 821
- **電話**：0269-33-2260
- **営業時間**：10：00～21：00（最終受付 20：30）
- **定休日**：水曜日（季節により変動）
- **通常入浴料**：小学生以上 500 円
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材日**：2014 年 1 月 1 日（水）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部